

市政 刷新

【発行者】

福岡市議会議員 調崇史（自由民主党 福岡市議団）



正論を市政に!
福岡市議会議員(城南区)
調たかし

補助拡大!

福祉バスの助成・大幅増額が実現 実質的な利用者負担が軽減

貸切バスの価格上昇に伴って平成27年度から利用者負担が増加していた福祉バスについて、平成29年度当初予算で助成額が大幅に増額されました。これを受けて、運賃の負担がゼロになるケースもあり得ることから、より利用しやすい制度になります。

この問題は平成27年の2月議会で私が最初に一般質問で取り上げ、平成28年度の予算編成からは自由民主党福岡市議団の政策要求の一項目として市の助成増額を求めてきました。

平成26年度以前と同水準まで使いやすくなった福祉バスが今後さらに有効に活用され、高齢者や障がいを持つ方々などの社会参加や懇親の輪が広がることを期待します。



バス利用の助成上限額	昨年度までの助成上限額	今後の助成上限額
大型車	58,000円	→ 89,000円
中型車	49,000円	→ 74,000円
小型車	43,000円	→ 60,000円

クローズアップ

福岡空港の民間委託に関して ①

運営会社への出資条例案が再議で否決

4月13日未明に開かれた本会議において、自由民主党福岡市議団が議員提出した「活力ある福岡空港づくり基金条例案」の再議が行われ、賛成41・反対21の採決結果で否決されました。この条例案は去る3月28日の本会議で賛成39・反対20の賛成多数で可決されていましたが、市長が一般的拒否権にある「再議権」行使したため、改めて3分の2以上の賛成での再可決が求められることになっていました。

再議の結果は、あと1人賛成すれば3分の2に届くという僅差であり、最終盤に自由民主党福岡市議団の中から1名の造反者を出したことが大きく結果を左右することとなりました。メディアでも大きく報道された今回の政策論争について、一連の経緯を以下で詳細に報告します。



クローズアップ 福岡空港の民間委託に関して ②

民間委託される福岡空港

福岡空港は年間2千万人以上が利用する、九州の空の玄関口です。都心部に近く国内でも屈指の利便性を誇り、発着便数は年々増加傾向にあることから、平成28年には国から混雑空港の指定を受けました。国は混雑緩和のために滑走路の二重化によって発着枠の拡大に取り組むことが決まっています。

しかし、約1600億円にのぼる費用を国交省所管の特別会計から捻出することが困難であることから、国は空港の運営権を民間に売却し、その収入で滑走路の二重化を推進することとしています。

空港の運営権者は国との契約に基づき、ターミナルビルのテナント料や空港使用料等から収入を得ながら、滑走路の安全管理や空港周辺地域の環境対策などを担っていくことになります。

論争の発端は県の「出資決断」

平成28年6月に私たち自由民主党福岡市議団は、当局から「福岡市は民間委託後の運営権者に出資をしない方向である」との説明を受けました。一方でその後間もなく福岡県が議会の決定を受けて「出資をする」という結論を出したことが報じられました。

福岡県と福岡市の対応が分かれることは好ましくありません。広域行政を担う県と、空港立地自治体であり基礎自治体である市は、福岡空港の運営への関与を通じて実現しようとする政策の方向性が必ずしも同じではないからです。市も県と歩調を合わせて出資による関与をすべきとの意見が会派の大勢を占めました。しかし、市当局が方針を変えなかったことから、さまざまな協議の場で「出資すべきだ」「出資しない」の問答が始まりました。

目についた「国任せ」の姿勢

こうした中、平成28年7月には福岡空港の民間委託の基本スキーム案が示され、出資の割合が県と市で合わせて10パーセントまでであることや、運営権者はターミナルビルの管理に加えて滑走路の管理など航空機の安全な離着陸に関わる重大な業務を担うことが明らかになりました。一方で空港立地自治体である福岡市は、運営権者とは空港法第14条に基づく法定協議会で「空港の利便性の向上」に関する協議ができるに過ぎず、安全性の確保や空港周辺の環境対策について市民の利益を運営権者に対して十分に主張できない恐れがあるという懸念が生じました。

当局は、「安全性については国が最終責任を負う」、「国の指導監督のもと万全が期される」などと説明していましたが、民間委託後の安全管理は第一義的には運営権者が担うのであり、公共の責任を国任せにするのは空港立地自治体としてあまりに無責任というほかありません。平成28年11月には、福岡市が



福岡県や地場民間企業とともに出資をもって関わってきた福岡空港ビルディング株式会社との資本関係解消に伴う株式の売却収入が約64億円に上ることも判明し、この売却収入を活用して、新たな財政負担を生じることなく民間委託後の運営権者に出資をすべきだという意見が、いよいよ会派の大勢を占めるこになりました。

裏面へ続く ↗

地域活動

金山小学校の防球ネットの延長工事が完了

金山小学校の校庭南側の隣接地で宅地開発が進んでいますが、児童の授業や休み時間のボール遊びはもちろん、校区のソフトボールリーグなどの際に、新しく建てられた宅地にボールが飛び込むことを心配して、小学校と地域から防球ネットの延長工事のご要望をお預かりしていました。実現まで1年あまりかかりましたが、今年の2月に無事に工事が完了しました。子どもたちがのびのびと球技に親しめる一助になればと思います。

しかしながら、防球ネットも決して万能ではなく、ネットの上を越すような「飛ばし過ぎ」には、学校も教育委員会も責任を持たないかもしれません(ケースによるかと思います)。良い子の皆さんも壮年・シニアのソフトボール愛好者の皆さんも、飛ばす方向と高さには十分ご注意下さい!

調 崇史 プロフィール

1978年 4月17日生 39歳

- 1978年 ● 福岡市生まれ
- 1991年 ● 七隈小学校卒業
- 1994年 ● 梅林中学校卒業
- 1997年 ● 修猷館高校卒業
- 2002年 ● 九州大学法学部卒業 TNCテレビ西日本入社
- 2010年 ● 同社退社
- 2011年 ● 福岡市議選初当選
- 2015年 ● 2期目の当選 現在、金山団地在住 妻と3女



www.t-shirabe.net/

調たかし 市政相談所

ぜひ、お立ち寄りください

〒814-0131

福岡市城南区松山2-5-5

志のぶビル201号

※市営地下鉄 金山駅から徒歩3分

七隈本町バス停から徒歩1分

TEL: 092-834-9984

FAX: 092-834-9983

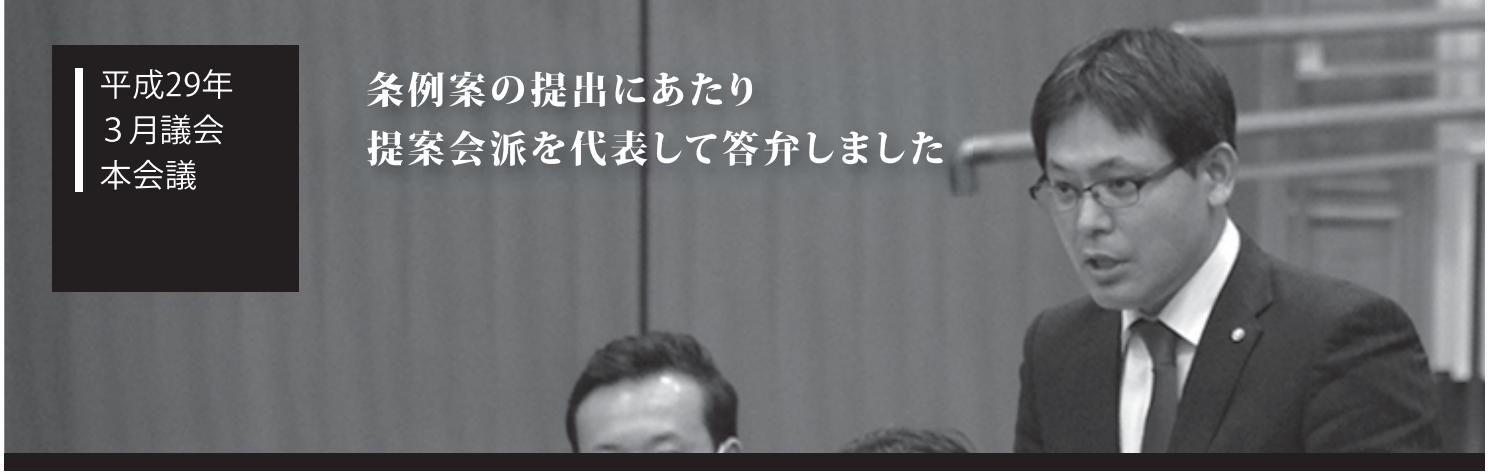
mail: info@t-shirabe.net

調たかし

検索

平成29年
3月議会
本会議

条例案の提出にあたり 提案会派を代表して答弁しました



平成29年3月
条例予算
特別委員会

総会質疑の答弁者を 務めました



クローズアップ 福岡空港の民間委託に関して③

■「条例案の否決」と「決議」

空ビル株の売却収入を出資に充てるべきとの自由民主党福岡市議団の多数意見に対し、当局は全く耳を貸す姿勢を見せないどころか、今年の1月には64億円のうち56億円を「空港の周辺対策」名目で基金に積み立て、残りの約8億円を一般会計に戻す案を提示しました。しかし、56億円もの多額の基金が具体的に何に使われるのか、はっきりした用途が示されなかったことから、当初案は大きな反発にありました。

すると約2週間後には、56億円を一般会計に戻し、8億円を空港の周辺対策名目で基金に積み立てる案を提示してきました。根拠のない数字の入れ替えは、当局に明確なビジョンがないことの証左と捉えたことから、会派としてこの提案を拒否。空ビル株の売却収入は空港運営への出資に充てるべきとの強い意見を当局に突き付けました。

こうした中、市長をはじめ執行部は1月25日の市政運営会議で、64億円のうち30億円を「こども未来基金」に、20億円を「スポーツ振興基金」に積み立て、約6億を空港周辺の学校の空調機器更新などに充て、残る約8億円を空港の周辺対策に用いるため「福岡空港未来基金」を創設し、積み立てることを何の前触れもなく決定。空ビル株の売却収入の大半を議会が反対しにくい子育てや教育の分野に振り分ける「論点のすり替え」が行われました。



ことここに至り、自由民主党福岡市議団は2月16日の会派協議で、福岡空港の運営について、福岡市の出資を求めていくことを機関決定。2月議会では、この方針に反する「福岡空港未来基金」の設置条例案を否決するとともに、2月23日の本会議では、福岡空港の運営への出資を求める決議案を提案し、議場の7割近い賛成を得て議決しました。



■ 頑なに出資を拒む市長と議会軽視の姿勢

この本会議終了後、市長は議会で示された民意を一顧だにせずに、出資しない考えを示しました。このため、議会としてはより強制力のある手段を取る必要があるとの機運が高まり、自由民主党福岡市議団は3月の予算議会に、「活力ある福岡空港づくり基金条例案」を議員提出しました。この条例案は、第4条で市長に対し、空港運営への出資に向けた努力義務を課すものでした。

3月9日の議案質疑をはじめ、分科会審査や条例予算特別委員会の総会質疑などの審査過程で、私は幾度となく他会派の議員からの条例案についての質問に答弁する役目にまわりました。慎重な審査の結果、条例案は福岡市民クラブによる案文の修正を経て、共産党や維新の会などの賛成で可決・成立。

しかし、市長はまたしても議会で示された民意を受け止めることなく、61年ぶりとなる「再議」に踏み切りました。

クローズアップ 福岡空港の民間委託に関して④

■ 福岡県との協議が不可欠に

空港運営への出資を巡る議論の詳細な経過は、以上述べた通りですが、再議の結果は冒頭に記した通り、必要な賛成の42人にわずか1人届かなかったことから、条例案は廃案となりました。事実上、福岡市が出資をする可能性はこれでなくなったので、安全管理や周辺の環境対策に関する運営権者の取り組みについては、福岡県を通じて適正に監視をしてもらうしかないと思っています。

ただ、空港運営への関与について、再議までの段階で市長と



県知事の間で協議が持たれたことはなく、決して簡単なことはないと思っています。個人的には県との連携は「次善の策」だと思っていますので、実現するように汗をかいていきたいと思います。



自民党福岡市議団 会派構成についてのお知らせ

2月に福田まもる議員(博多区)、飯盛利康議員(南区)、中島まさひろ議員(中央区)が会派を離脱したほか、4月13日付で橋田和義議員(中央区)が除名となつたことから、今期20人で発足した会派は一時16人にまで減少しました。

一方で4月14日付で、平畠雅博議員(早良区)、鬼塚昌宏議員(博多区)が新たに加入したことから、18人の会派構成となりました。

The screenshot shows the homepage of the 'Lib Dem' Fukuoka City Council delegation website. At the top, there are links for 'ホーム', '理念・政策', '活動報告', '議員議員のご紹介', and 'ご意見・ご要望'. Below this is a section titled '会派議員のご紹介' featuring 18 profile boxes, each with a photo and name. The names listed are: 畠山英樹 (Fukuda Masaki), 田中一郎 (Tanaka Ichiro), 今林ひでき (Imamura Hisae), 阪原茂 (Hirabayashi Shigeo), 堀田 寛 (Horita Hiroshi), 楠木 誠 (Nanbu Makoto), 佐々木 勉 (Sasaki Noboru), 佐藤 健 (Sato Kenji), 佐々木 光安 (Sasaki Hikaru), 佐々木 駿 (Sasaki Jun), 佐々木 基安 (Sasaki Takanori), 佐々木 陽平 (Sasaki Yohhei), 畑田信太郎 (Ishii Nobuo), おばた久尋 (Obara Kuni), 大森一馬 (Ochiai Ichiya), and 沢田信太郎 (Sawada Nobuo).